

が ん ば

一年をふりかえって

育友会長 本田武彦



月日のたつのは早いもので、もうまもなく昭和51年度も終ろうとしております。でも私にとりましては、実に長い一生でした。

吉田前会長をはじめ多くのベテラン会員の方が卒業され、私のように何もわからない者が会長に選ばれ、一時は夜もねむれないくらいでした。

しかし、幸いにして、会員の皆様や、役員の方の励ましにより、なんとか大役を果すことができました。

本年度は育友会活動は勿論ですが、私にとりましては、

生涯忘れることのできない大きな出来事が沢山ありました。会員の皆様をはじめ、白山地区民が長年待ち望んだ、小学校では県下一の体育館が落成しました。

今では、島原一の社会体育の場として、地区民はもとより多くの人に広く利用されております。

また三年ほど前より企画されました創立百周年記念事業も、先輩や卒業生の皆さん、会員の皆さん、町内会、婦人会、青年団、各種団体の皆さんの御努力と御協力により、新装なった体育館で島三小創立百周年記念式典が盛大に行なわれました。

そして、その記念事業の一つとして校門の近くに立派な

報行部 印刷所
育友会 報 刷 所
島三小 報 刷 所
発行部 印刷所
島三小 報 刷 所

第49号

記念碑が建立され、さらに校舎西側には、これまた県下でもめずらしい岩石園が造園されました。

猛暑の中、夏休みを返上して岩石集めに奔走して下さいました先生方、会員の皆さんの熱意に対し、私は口ではいいあらわせない気持です。

育友会活動の面では、各専門部が部長さんを中心に、よくまとまって活動して下さいました。交通問題、生活指導環境整備、広報活動、さらに又町内、学級の育友会も自主運営を目ざして頑張っていただきました。役員、部員、会員の皆さん、本当にご苦労様でした。さらにわが三小育友会が、長年の育友会活動が認められまして、あまり例のない、県P、九P、日Pと三つの表彰の栄に輝きました。

先輩の皆さんの長年の労苦がここに認められ、この榮譽は

輝いたのであります。

また私共育友会の最大の関心事であります運動会も、先生方と、会員の皆様の協力によりまして、なんの問題もなく開催されました。今後共、この運動会が子供達の健全育成の場として、ますます発展して行くことを心より願っております。

子どもの教育は先ず大人の反省から

学校長 原口晃



このごろの学校教育について、先日新聞記事にものっていたが、勉強についてゆけないものが多く、落ちこぼれの子供は置去りにされる傾向がある。上級進学など受験技術は進歩したが、入学後はダメになっているものが多いといわれる。とにかく、最近の子供は感情や衝動をそのまま表現するのを自由だと思っっているようである。これらの点は学校教育においても猛反省すべきことである。

この一年間、会長として何もなく、校長先生をはじめ諸先生方、会員の皆様役員の皆様、本当にお世話になりました。心よりお礼を申し上げます。

会員の皆様の御多幸をお祈り申し上げます。

一方、社会全般に、少年非行は粗悪化し、窃盗は依然として犯罪の大半を占め、不純な性行為が数を増し、非行は急速に低年齢化しつつある。

しかし、こういうことに対し、大人は案外と無関心である。自分の子供はそんなことではないと確信している。従って、子供たちのためのより奇麗で豊かな環境づくりをやるうとしない。仮りに消極的に話題にはしても、身をのり出して積極的にはやらない。

非行を誘うような悪書、自動販売機は依然として活用されているし、種々の少年犯罪の発生するたまり場の除去など問題にされていない。

そして、大人たちは、子供たちにはよく注意するが、自らの公徳心はなっていない点が多いように思われる。

子供たちが、大人は自分のことだけ考えて身勝手であるといっても仕方ないだろう。さて、家庭というのは最後の城である。ここがくずれたら、もはやどうしようもない。私たち大人は家庭生活について、総反省すべきではないか。先ず、大人自身があまさから脱却し、子供のしつけにおけるあまえを開放すべきである。

そして、敵しい、本物の愛情をうちたてねばならぬと思う。

(私は疑問に思う)

- ・なぜ勉強一本やりが有為な人物養成なのか。
- ・なぜ人間としての基本的態度育成に最重点を置かないのか。
- ・テレビの見せすぎからの解放を最急務としないのはなぜか。
- ・大人は良書を読まず、悪書を読んでよいというきまりでもあるのか。
- ・世の夫よ、教育ママの教育親を追究しないのはなぜか。

(私は叫びたい)

- ・母親よ、子供には、心からの笑顔で接せよ。
- ・父よ、母よ、子供の悪いことは、こっそり呼んでさとし、良いことは、小さなことでも、大きくほめよ。
- ・両親の言動は、いつも子供の手本となっている。親の後姿こそ最も重要である。

卒業にあたって

六ノ三 宮崎 ヨシエ

「光陰矢の如し」ということわざの様に、月日の経つのは早いものです。

二人の子供を卒業させ、今度末娘と共に私も別れの時がやってきました。

思えば入学当時は朝の集団登校で「おはよう」となかなか言えない内気な子供でしたが、今では見違えるほどになり、言葉つきも大人っぽくなり何事も自主的にと手伝いする様になりました。この六年間の成長振りに喜びをかみしめている今日この頃です。

子供も卒業を前に、小学校生

活をみんなの暖い友情の中で楽しく伸び伸びと過した事が思い出される事でしょう。

今後は、この六年間で得た教育を基礎として計画をたて、勉強に運動に、自信を持って進んで行く事と思います。

長い間、何事もなく無事卒業できるのも諸先生方の熱心な御指導、学友の暖い友情、又、育友会の方々の援助の賜と感謝致して居ります。

又、私、育友会員として長い間皆様と共に、いろいろの会合の場で勉強させていただきました事が、なつかしく思い出されます。中でもブルーの完成、体育館の完成、三小百周年記念等の大事業の想いは忘れる事は出来ません。

長い間、何の役に立ちませず、お世話になりました。本当に有難うございました。厚く御礼申し上げますと共に第三小学校と育友会のみますますの発展をお祈り致します。



一つの節

六ノ五 金崎 ふじみ

数回の流産のあと、漸く取りとめた小さな命。未熟児すれすれで生まれたこの子が、いよいよ小学校を卒業するのかと思うと感慨も一しおです。

幼稚園時代は一小地区に住し、小学校入学と同時に三小地区に移転。幼なじみの友もいないこの地区で、果してうまくやっていけるだろうかとこの親の心配をよそに、次第に乳離れをしていく我が子を眺めて、悲喜こもごもの思いを味わって来たこの六年間でした。

人一倍小柄な体に、大きなランドセルを背負って、というより、ひきずられるような危うい足どりで、二キロ余の道を通った入学当初。余りに掃りがおそいで、年老いた祖父が途中までむかえにいった事も再三あったとか。「大きくなったら、いつも家に居るお母さんになりたい」といったこの子の願いに、何度かくじけそうになりましたが、共働きを続けて来ましたが、母親としては全く失格気味の自分を深く反省しつつも、一

つの節を過ぎようとする我が子の成長ぶりに、安堵の胸をなでおろしています。

多忙にとりまぎれて、ガミガミ叱るばかり。家に帰れば開口一番「宿題は？」といひながら炊事にかかる失格母親ぶり、カミナリカアサンと呼ばれて反省させられ、親子のおたより帳を作ったのは三年生の頃だったと覚えていきます。

このことで、頭ごなしにガミガミ言うより、感情を少しずつ文字にしたためあうことで、お互いに素直になれることを体験しました。又、文章を書くことにも慣れ親しんで来たように思うのは、親馬鹿かも知れません。

一人っ子は過保護だ、我がままだといわれたくないという母親のエゴで、一方的な押しつけもずいぶんして来ました。感情的になって手をあげた事も、何回あったことでしょうか。

今卒業を前にして、たまには母親のかわりに台所に立ってくれる、我が子の心身共に成長した姿をながめ、今更のようこの姿のかげに、先生方の適切な御指導があったればこそこの感謝の念を深くしております。

巣立つ子の親として

六ノ四 大島 政助

「仰げば尊しわが師の恩」

フト、この歌が思い出され、つくづく歳月の流れは早いものだと感じさせる今頃です。

さようなら三小

真新しいランドセルを背負い、元氣よく「行って来ます」と馳け出していく子を、期待と不安を抱き乍ら送り出し、夕食の時は習って来たこと、学校での生活

ぶりを得意気に話し、その言葉に親も一喜一憂しながら聞いたものでしたが、やがて、学校でのことも話さなくなり生意気な言葉を聞くようになってしまったらもう卒業、振

り返る六年間は、またたく間に過ぎ去ったようでホッとする反面、一抹の淋しさを感じます。

考えてみますと、いろんな事が思い出される。研修旅行での出来事、夏休みにおける子供会活動、特に球技大会の前になると練習場の確保から懸命で、朝早くから子供達に促されて練習の手伝い、親子レクレーション、冷たい北風の中を早朝の遊園地清掃指導

夢中になった運動会の町内対抗リレーの応援等ある時は子供を叱りながら過したものでした。

しかし、子供達には、親以上に思い出が一杯あります。一生のうちの六年間は一部分

かも知れませんが、小学校の六年間こそ、生涯の忘れられない思い出となることだと思います。親身になって指導して下さった担任の先生方の顔々、友達や学校での出来事、そして教室や机、校庭の一本

一本の樹々にも忘れられないものがあります。そして、この六年間が一生を左右、大切なものかと思ふとき、もっと親として関心を持つべきでなかったらうかと反省させられることばかりです。

三小と共にあった白山もなかり、立派な体育館も出来思いきり勉強や運動に、伸び伸びと励むことが出来たことは、子供達にとって幸せなものであったらうと思います。

又、卒業の年に当り三小の百周年を迎え、その行事の中から先輩達の残して下さった尊い文化遺産の中で、自らどう生きなければならぬかの意義を子供心に感じ取ってくれたことだろうと思うと、カプセルの中身より、もっともっと素晴らしいことだと思えます。

運動会の日曜開催問題でいふこともありますが、これも学校と地域、先生と父母のふれ合いが、このことに関心を持たせたものであり、この地域性とPとTのふれ合いと子供達の成長のために、尚一層深めて下さると共に、巣立ち行く子供達にも、今迄以上に指導をお願い申し上げます。

六年間のあゆみ

六ノ二 入江 梯子

「あら、康ちゃん一年生？」

「まるで、ランドセルが歩いてるみたいね。」

「今日ね、カバンをずるずる引きずっていたよ。」

これは、入学当時の子供の姿です。

でも、この頃では「小さいけど、元氣いっぱいね。」

「早くから坊主頭にしてサツカーに夢中ってところね。」

「マラソン、早かったじゃないか。」

など、体が弱くてテレビにかじりついてた頃を知人のことばです。

年が若いので、みんなについてゆけるだろうかと思う親の心配をはらいのける様に、ぐいぐいと成長してくれました。

沢山の良き友達も出来て安心しています。

私も三小育友会の会員になって九年!!

ただ夢中ですごして来ました。朝登校時の交通補導、夏休み行事への参加

親子ハイキング、バレー大会その間にある代議員会等。

特にバレー大会が近づく、ほとんど夜はいません。テストがあつていようと、少々の用事があるうとも万難を排しての練習です。主人も最初は、バレーは女子のするものと相手にしなかつたのが、今では私よりも楽しみにしている有様です。買物に行つた時

青年の方から挨拶され、あら私にこんな若い人の知り合いがあつたかなと考えてみるとなんとバレーで何度かいっしょになった仲間だつたりして思はず嬉しくなる様な事も、たびたびありました。四十の手習いとはよくいったものでバレーボールを一度もにぎつた事なかつた私達でしたがやりかかつて五年!!

バレーをしてるから育友会の会員かな?と錯覚する程でした。又、四年生の運動会の時、平均台から足をすべらせ、腕か骨折した時の、先生はじめ会員の皆さんの親切は、子供にとりまして一生忘れぬ思い出の一つでありましょう。

又、修学旅行を無事に終えて帰って来た時のうれしそうな顔。もう車酔いは絶対しないぞという自信があつたので

しょう。

これら一つ一つを貴重な体験として、これからのものびてくれるであろう我が子を見る時、手に手をとって教えて下さった先生方に感謝すると共に、とにかく、今年で小学校は終りだと思ふ一抹の淋しさを感じる私の胸の内は、どうしようもありません。

最後になりましたが、先生方の御健康と三小育友会の今後の御発展をお祈りしながら、筆を置かせて載きます。

六年間の

「交通補導に思う」

六ノ一 深堀 静枝

「おはようございます。赤い頬をほころばせ乍ら、元氣よく登校する小さな天使達。集団登校、黄色い旗、黄色のランドセルカバート、少しでも交通安全に協力しようとする姿を見る時、私は、どうすればこの交通戦争から守る事が出来るだろうか。車がなければ、車が走らなければと思つてみました。でも、私達の生活の一部となった現代にかか

せない車、それを動かすのは人間なのです。格言や標語の好きな国民も、今のめまぐるしくあわただしい情報化時代には、もうその効果はうすくなって来ているのでしようか。初心を忘れてしまった暴走族、飲酒運転と絶え間なく続く事故、細い道、カーブの多い道路を猛スピードで走行する乗用車、安全運転車に、追越禁止区間内でホーンを強く鳴らして追い立てようとする大型車、追いつ追われ乍ら前に割り込む車、運転者に課せられた責任を忘れてしまったかの様に見受けまます。自ら心を引きしめ、基本的な安全運転のルールを守ってこそ、始めて事故を防ぐ事が出来るのではないのでしようか。車の運転は危険をともしなうだけに、イライラしたり言動が粗野になりやすく、特に目の前で乱暴な運転や、挑発的な車の動きをされると、普段はおとなしいイドラ

イパーでもカッとなるといわれています。先日、私は一日一善を思い出し、かなり渋滞している道路に、細い路地から合流しようとしている車を見つけ前をあけて合図をする時、手を上げて走り込んで来ました。私も、以前にそんな親切をうけた事があり、ほのぼのとした心の触れあいも又安全へのかけ橋となるのではないかと思ひます。完全な運転への道は厳しく感じます。一人一人の協力がなければ、交通戦争の文字も消す事は出来ないでしよう。島原は、特に事故の多い所で、たくさん犠牲者が出ています。毎日毎日を安全の日として何時も危険と隣り合わせである事を忘れずに、お互いの自覚と協力で、子供達がすくすくと伸びて行く事を願っています。子供も中学へと進みますが、校長先生を始め諸先生、育友会の皆様方、大変長い間お世話になりました。三小での経験を生かし、これからも二層、交通安全の為に協力したいと思つて居ります。

本校の体力づくり

三小教諭 伊藤 吾

島原半島一周マラソンで!!

現在の子供は、体位の向上は著しい進歩は見られるが、体力のなさは、当然のように指摘されている。それには、多くの原因があるのでは……化学食品の過食、特に、運動量の少さによるものである。虫歯が多い、近視が多い、骨折が多い、疲れやすい等の欠陥だらけの現在の子どもであるが、その他、家庭環境もあらゆるテレビの見過ぎは、大問題である。小利口さはさらにずるくなり、体を動かすことをいやがり、機械化はさらに進み、労働に精出す姿が見られないのが、現代っ子の傾向のようですが、

三小では、伸び行く子どもたちの身体を強くたくましく育てていくため、今年も冬の体力づくりの一環として、十二月一日より「毎日元氣よく走る。」を目標に、全学年、運動場(一周四百四十メートル)一周するにつき、島原半島一周(百四十五)七百二十一の

目もりを、一めもりを塗りつぶして行く方法で、島原半島一周を目標に、登校してから始業時間まで、休み時間や放課後、雨天時や病気で走れない日もあります。ほとんどよく走り回っています。

運動量の多い子は、すでに五周目に挑戦している子もいますが、学級全体で日本一周の四千七百キロに挑戦し、学校全員の力で世界一周の四万キロメートルを目標に、頑張っています。

以上のことが体力の向上となり、走ることが各種スポーツの技能の上達の基本であることを、三小の先生全員が認識しながら、冬場の体力づくりに動んでいます。

校内マラソン大会を二月二十二日に行ない、日頃の練習の結果好タイムが出て、終了後ぜんざいを食べ、健闘をたたえていました。

(距離 三、四年一キロ、五

六年二キロの白山埋立てコース

記録

三年女子	1位	勝田政子
男子	1位	内田潤一
四年女子		大塩輝子
男子		小島正生
五年女子		中西香名
男子		小出献吾
六年女子		田中愛子
男子		木田和幸
第十五回島原マラソン大会		
出場者	一八一名	
(距離二キロ、島原城一周)		
記 録		
五年	2位	小出献吾 7分52秒
	6位	酒井康弘 8分4秒
	12位	吉田和生 8分15秒
	14位	吉田雅博 8分17秒
	20位	増中幸夫 8分24秒
六年	1位	木田和幸 7分13秒
	4位	石本幸紀 7分28秒
	5位	桐原英博 7分32秒
	7位	小島幹生 7分37秒
	9位	藤山剛司 7分39秒
	16位	中村長規 7分52秒
	17位	松崎和浩 7分52秒
	19位	伊藤誠志 7分55秒
女子	19位	田中愛子 8分42秒
	20位	北島晃代 8分42秒

躍が目立ったマラソン大会でした。

先生も

マラソンで



伊藤 藤 吾

三小の先生も、子どもが頑張るので私たちも体力づくりをと、老いも若きも子どもと一緒に黙々と汗を流し「今日は四キロ走ったので、小浜まで行ったよ」と健闘を喜びあっています。

二月十三日には、第二回島原半島一周駅伝を七人の先生で、一区間二キロメートルを交替で、年令を忘れて今年も行い、昨年の累計タイムを大中に破る七時間十三分五十三秒で走破し、子どもと一緒に練習した体力が年令を上回ったと喜び合っており、来年も第三回島原半島一周駅伝を行おうと、今からすでに張り切っています。

今年の参加者は、坂本・田中・荒木・中島・伊藤・大隅吉岡先生の七人で行いました。来年は女の先生も参加する予定です。

育友会の会員のお父さんも子どもと共にマラソンいかがですか。

三小にも

こんな元気ものが

二月十五日の雪の中を、半袖シャツに、半ズボン姿で寒さに挑戦している根性の持ち主の六年五組の桂栄一郎君と金子享君、三人の風の子は、学級のほとんどが風邪で苦しんでいる中で、今日も元氣よく運動場を走り回っています。

二人は大の仲良しで、学校の島原半島一周マラソンはすでに四週目(約四百キロ)を走り抜き、すでに五週目に挑戦しています。

桂君は夏服で過ごすようになって三年目で、長崎の学校から四年生の時転校し、十一月十一月になっても夏服で通学し続け「この寒さ、明日は冬

服で登校してくるはず」クラスの友達はこう予想したが、一月になり二月になっても夏服で通学し、みんなの予想はずれた。五年の時、今年の冬は桂君に負けるなど頑張ってみても、十月、十一月を過ぎるとみんな長袖になってしまいが、六年になり金子享君が熊本市内から転校し、桂君に刺激され今年の冬は仲良しに二人共、半袖・半ズボンの薄着で通しそうで、学級全員も二人の影響で薄着の習慣が付いてきました。

二人のたくましい精神力と根性は、現在の三小にとって貴重な存在のようです。



左 桂君 右 金子君

【交通部】

交通部長 伊藤 八郎

三小育友会交通部におきましては、交通事故0を目標に部員一同努力して来ましたが、然し、上昇する交通量を背景に、下川尻南の通学路、中組以南の新国道工事による通学路の問題等が山積したこの一年であつたように思います。

それだけに、関係のある皆様方のご苦勞に対し感謝致すと共に、各所の問題解決には全会員の強力な団結と努力が必要なお現状にあつて、今後のご協力をお願い申し上げます。

交通事故が三件発生しましたが、いずれもけがはなく不幸中の幸でありました。

学校・市警・安全協会・市土木課の方々のご指導とご援助、更に育友会の皆様のご奉仕をいただいで、この好成绩は得られたものと、深く感謝している次第です。

最後にあたり、無事故でありますようにと、心から祈りながら、子どもたちが楽しく通学できるよう交通環境の整備に、残る期間の努力を続けたと思います。

【環境部】

環境部長 佐久間ガクジ

「児童は、よい環境のなかで育てられる。」

「すべての児童は、就学のみちを確保され、また十分に整った教育の施設を用意される。」

「すべての児童は、よい遊び場と文化財を用意され、わるい環境からまもられる。」

育友会 一年間のあしあと

私が環境部の仕事をとおせつかって最初に思いうかんだのが、児童憲章にうたわれているこれらの言葉でした。

基本的には、だれにでもわかりきっていることですが、いざ実行にうつすととなると、さてどうして良いものやら、なにから手をつけて良いものやら、さっぱり見当もつかぬうちに一学期が過ぎてしまいました。

一学期末になって、各町内育友会に対し、危険個所につ

いてのアンケートをおねがいの集約と、校内の実態調査を行いました。

アンケートについては、約半数の町内の御協力を得たのですが、一朝一夕に解決できることばかりではなく、今後の地道な活動で改善していかねばならないと思います。

また、校内の実態調査については、十四項目にわたる報告書を作成し、学校当局に善処をおねがいました所、学校独自でできることについては、ほとんど改善していただきましたが、老朽校舎の改築、施設・設備の整備等、市当局の予算措置を要するものも多く、これらについても今後の地道な活動で、改善・整備を行わねばならないと思います。

要は、育友会員ひとりひとりが冒頭の児童憲章の精神を充分理解した上で、一致協力して行動することが、全ての児童、ひいては自分の子供に満足すべき環境の中で、十分教育をうけさせる事につながると思います。

今後とも、会員の皆様方の御協力をおねがいたします。

【教養部】

教養部長 坂本政幸

昭和五十一年度の教養部長として一年間大過なく終了致しました事は、学校当局育友会長及び育友会の皆様方のひとかならぬ御協力の賜と、衷心より感謝致します。

この一年間を振り返ってみますと、

努力目標内容として

教育の理解と振興

(イ) 育友会の親睦と研修(視察等の企画運営)

(ロ) 育友会巡回文庫の活動

以上の目標を掲げて活動を致しました。

一 視察 七月九日(金) 学校研修実施

(イ) 学校 長崎市新興善小

(ロ) 施設 長崎市立交通公園

参加人員 四十六名

目的：育友会の組織運営ならびに、専門部の活動状況の実際の研究と学校施設の視察研究をする。

午前八時、広馬場バス停出発。目的地新興善小学校に於いて、施設・教室・給食設備・体育館・購読部・運動場・プール等を見学後、育友会の皆

様方と寸時、意見交換をする。所感

一 育友会活動は、学級育会を中心としている。

二 学級育友会を母体として、専門部を組織する。

三 町内育友会活動は少ないが、町内会長や補導委員の参加協力を得ている。

四 専門部の活動は、広報部が特に活発である。

終了後、交通公園見学予定でしたが、大雨のため車中より見学しました。帰りの車中では楽しい歌合戦。自己紹介等をし、会員の親睦のため大いに意義がありました。

二 巡回文庫

七月二十日、九月十日、白山公民館及び三小児童用図書より百二十五冊を借出して、五班に分けて実施しました。

利用状況をみますと、姪子鼻・南風泊・下川尻北・下川尻南・桃山・靈南の各町内が、特に読んでおられるようです。

今後、巡回文庫の利用については、事前に図書名を書いたチラシ等を配布して、各町内にPRしたいと思えます。

又、各父兄より希望図書の申し込み、意見等を受ける様にはかかたいと思えます。

最後に、教養部活動に御協力戴きました学校当局、育友会長及び各父兄に深く感謝致します。

【生活部】

生活部長 塚崎和秋

今年の第一回部会にて、一年間の活動方針を次の様に計画し、活動を行って参りました。

目標として「校外に於ける生活指導に努める。」

○年間事業計画

(1) 各町内の集会場や目につきやすい所に、生活標語を掲示する。(生活標語の内容は、先生の意見を聞く)

(2) 長期休みの前に、生活全般についての会合を設ける。

(3) あらゆる事故を未然に防ぐ。

(1)については「校外での約束」という題で、三年生以上の生徒に標語を募集致しました。応募総数二百五十九名、標語数六百三点と多数の作品を集めることができました。

これも先生方の御協力の賜と深く感謝致しております。

選出にあたりましては、荒木先生、佐藤、西浦両副部長と共に、慎重に検討致しまし

が ん ば

(7)

た。各作品共力作ばかりで、選出するのに大変苦慮致しました。内容は「挨拶」「非行」「防止」「お手伝い」等豊富で、現在父母が心配しているような事をよく考慮したりっばな作品でした。

その内から二十点を入選作品と致し、標語の書写を佐藤副部長の奥様に依頼し、約二ヶ月毎にその時節に合うような内容のポスターを、三点から四点ずつ各町内の部員の方にお願ひし、掲示致しました。(2)(3)については、夏休み前に巡回映画を実施致しました。実施に付きましては、機械に不慣れな為に大変御迷惑をかけたことを、深くお詫び申し上げます。

最後に、生活標語作成、掲示にと、いろいろ御協力下さった皆様に、厚くお礼申し上げます。

【保健体育部】

保健体育部長

広田 誠一

本年度、はからずも本田会長より保健部長という大役を任じられ、育友会の発展の為がんばっていかうと思っておりますが、何分この様な仕

事を行うのは初めての事、何から手をつけてよいやらわからずと思っておりますが、幸い、会長を始め、役員、部員、会員の皆様のあたたかいご指導、ご協力により、年間事業計画の球技大会、水泳大会、育友会町内対抗バレー等無事終えました事を、深く感謝致しております。

又残念な事ながら、親と子の親睦の一つであります親子ハイキングが、雨の為中止となり、過去この様な事がなかったと記憶しておりますが、私の人徳のなき事を意味するが如く、球技大会の当日も雨で順延となり、どうも両方の汚名をかぶったようです。

この一年間の反省として、球技大会の参加要項での事、育友会員の皆様は、自分の子供達の成長を見つめる一つの事かもしれません。又、やはり一・二年生の参加は、健康上成長上の事を考えますと無理だったと思えます。又、隣接町内の合併がよいと思いた。昨年「子供会」という名の「親の会」といいますが、三小育友会におきましては通じる事なく、明日の子供達の健康と成長をよく見つめられ、心豊かな成果があると、深く心に残っております。

【学級部】

学級部長 前田 武

学級部会は本年度

(1) 学習について

(2) 学習塾について
マンガ、テレビについて

(3) 保健安全について

(4) 学級育友会運営について

どれ一つとっても、保護者には大変な問題ばかりである。さて、部長を拜命はしたものの、前述の目的達成の為にどのように計画を立て、活動に移したら成果が期待できるのであるか考えているうちに、これは大変な役を引受けたぞと、正直いって困り果てました。

的余裕がないが現実のようです。それだけに、学級部会の意義が大きいのかも知れません。しかし、この一ヶ年間役員、会員の方々の御指導、御助力を頂きながら、何一つとして満足に目的を果し得なかった不徳を、心からお詫びいたします。ただ、勉強させて頂いたのは、いかに各役員の皆様が熱心に寸暇をおしんで、子供達の育成を考えておられるか、部会の反省にもありましたように、会員の皆様が万難を排して会合に出席され、協力していただき、子供達の幸を願わねばならないかという事です。

【広報部】

広報部長 小島 善子

が ん ば 発行 三回

臨時号 一回

親しまれる「が ん ば」を第一目標にし、広報部員一同、企画・原稿依頼・編集と会合を重ね、色々活発な意見を出し合い、製作にあたりました。四十七号(七月十三日発行)は、会長、校長先生の新任の挨拶や三小広報部の大先輩、山本梯一郎様からも三小創立百周年を祝って、なつかしい想い出生活を書いていただき

皆様にも興味深く読んでいただけたいと思います。育友会員が広報紙に、どんな記事を期待しているか、少しでもそれに答えるべく、努力したつもりです。四十八号は、副会長御両人へ原稿を御願ひし、特集として「家庭のしつけ」に取り組み、多くの人より原稿をいただきました。又、子供の優秀な作文にもふれていただけたいと思います。「三小児童の生活と健康の実態」には、考えさせられる多くの問題がありました。臨時号「夏休み特集号」は、ガリ刷で御届けしました。四十九号は、各部門の人々に、一年間の反省及び新年度への意気込みなどを中心に書いていただきました。学校と育友会を結ぶパイプ役として少しなり責任をはたす事が出来たのか又、育友会の声を充分集録出来たのかと、不安な面もありますが、御指導下さった先生や学校側、育友会員の多大なる協力に支えられて、広報部一同頑張ってきました。学校教育、家庭教育共に再検討、考慮され、大きく改善されようとしている時期だけに「が ん ば」の果才役割も、ますます重要になってくるのではないうでしょうか。次年度の活躍を期待します。

人格の基礎工事

遊びよりー

島三小 小峰忠与士

人の一生を家作りにしたと云うならば、幼稚園時代より小学校三年生頃までが、その基礎工事時代といえる。この基礎工事が地面深く、広く、しっかりとしている、その上にどんな高層ビルも建設できるが、それに手ぬかりがあると、工事が進むにつれて建物自身の重みで傾いたり、また、たとえ完成しても、そのような建て方では、大きな地震や台風にあうと、ひとたまりもなく崩れ落ちてしまう結果になる。

先日、ある学級のお母さん方と話し合う機会を得ましたので、色々と話し合ってみると、お母さんの中には、人間にとつて一番大事なこの基礎工事を怠り、地ならしもなくにしないで、いきなり砂上に三階建て、四階建ての家を建てようとするのをしている人がいます。だから、最近子どもが、小学校高学年、中学校へと成長するにつれて、しだいに勉強がいらなくなった、あるいは、学校嫌いになったり、学校で話をしなくなった、色々な問題行動を招くようになったりしているのも当然の結果のように思われます。

このように考えてみると、小学校三年生ぐらいまでは、何よりもしっかりと人格の基礎を築いておいてやるのが大切だと思えます。

では、人格の基礎工事は何によって行えばよいのか、それは、子どもの一番好む遊びであります。

そのわけは、大脳の発達からもわかるように、目が見え耳が聞こえ、物をつかみ、寝返りをうち、這う、立つ、歩く、走る、飛ぶといった行動が先に発達し、言葉をしゃべったり、考えたり、記憶したり、判断したりする等、人生の成長発達を自然のリズムで考える場合、幼稚園より小学校三年生頃までは、体得の時代といわれており、これは、本を読んだり、親から聞いての知識の習得ではなく、自分の体をもとにした体験、自分で見、聞き、触れ、考え、作るという体験で、身につける知識の習得のことです。すなわち、一日中思うぞんぶん遊びまわり、子どもらしい一日の体験をすることに、知能も伸び、仲間との交わり方も身につけていき、多くのことを学びとっていき、それがしっかりした人格の基礎を築くことになるのです。

私の好きな言葉に「根を養えば樹は自ら育つ」がありますが、発達の本根を張るものは、やはり遊びの他はな、思えます。

学校安全会について

ー保健室よりー

学校安全会とは、学校の管理下(登校・下校も含む)において、児童が負傷(けが)をして病院にかかった場合、医療費に対して見舞金が、給付される制度です。

全児童、加入しています。

加入掛金は、一人一年間百八十円です。(個人負担九十円設置者負担九十円)

本年度(二月末までの分)の利用状況をお知らせいたします。

◎学年別発生件数 (昭51・4/52・2)

一年生	七件
二年生	六件
三年生	七件
四年生	一三件
五年生	一〇件
六年生	一三件
計	五六件

◎保健室にきた

けが人.....一七〇人
病人.....五七五人

◎どんな時にけがをしたか。

○休憩時間中 (休み時間 一三人)

(昼休み 一三人)

(放課後 一人)

○授業時間中 (体育 一五人)

(図工 二人)

(理科 一人)

○そうじの時間 七人

○登下校中 四人



	頭・顔	頸・肩	腹胸腰	手・肘	足・膝	計
ねんざ		3		10	6	19
骨折				4		4
打撲	5		1	1	2	9
切り傷	9		1	4	4	18
刺し傷				1	2	3
火傷			2	1		3
計	14	3	4	21	14	56

けがの種類と部位

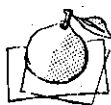
◎見舞金総額(五六人分)

二三五、九八一円

ぼんやりとしていて、不注意による負傷事故が多いようです。前日のつかれが残らぬように、スカッとさわやかな気分登校させてください。

編集

後記



本年度の最終号を御届けいたします。各号に、原稿をお寄せ下さいました方々、本当にありがとうございます。

「がんば」も、回を重ねて四十九号(臨時号を除く)十数年の学校行事や育友会活動が、各々の号に、それぞれの想いを込めながら、小さな歩みが刻まれてきています。育友会員皆で、もっと充実したものと育てて下さる事を願っています。次の方へとバトンタッチいたします。